

楚人謂虎為老虫。姑蘇人謂鼠為老虫。余官長洲，以事至婁東。宿郵館，滅燭就寢。忽碗碟砉然有聲。余問故。闍童答曰：「老虫。」余楚人也，不勝驚錯。曰：「城中安得有此獸？」童曰：「非他獸，鼠也。」余曰：「鼠何名？老虫。」童謂「吳俗相伝爾耳。」嗟嗟，鼠冒老虫之名，至使余驚錯欲走。良足発笑。

（江盈科『雪濤小説』による）

問

傍線部A「至使余驚錯欲走」の返り点の付け方と書き下し文の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 至_下使_二余驚錯_一欲_レ走
 余をして驚錯せしめ走げんと欲するに至る
- ② 至_レ使_二余驚錯_一欲_レ走
 余をして驚錯して走げんと欲せしむるに至る
- ③ 至_レ使_二余驚錯_一欲_レ走
 余をして驚錯せしむるに至り走げんと欲す
- ④ 至_下使_二余驚錯_一欲_レ走
 余をして驚錯せしめ走げんと欲せしむるに至る
- ⑤ 至_レ使_二余驚錯_一欲_レ走
 余をして驚錯せんと欲せしむるに至りて走ぐ

- （注）
- 1 姑蘇——吳地方の古いみやこ。ここでは広く吳地方を指す。
 - 2 長洲——吳地方に属する県の名。
 - 3 婁東——吳地方に属する町の名。
 - 4 郵館——宿屋。
 - 5 碗碟——食器。
 - 6 砉然——がたがたと音を立てるさま。
 - 7 闍童——門番の少年。

解 答

唐^(注1) 韓^(注1) 幹^(注1) 以^テ 貌^(注2) 馬^(注3) 召^{サレ} 入^{リテ} 供奉^(注3) 明皇 詔 令 從^A
 陳^(注4) 閔^(注4) 受 画 法。 幹 因^{リテ} 奏^(注5) 臣^(注5) 自^ラ 有^リ 師^(注6)。 陛^下 内^(注6) 廐^(注6)
 飛^(注5) 黄^(注5)・照^(注6) 夜^(注6)・五^(注6) 方^(注6) 之 乘、 皆 臣^(注6) 師^(注6) 也。 帝 然^(注6) 之^(注6)。 其^(注6)
 後 幹^(注6) 画 遂^(注6) 果^(注6) 踰^(注6) 閔^(注6)。

(胡直『衡廬精舍藏稿』による)

(注)

- 1 韓幹——唐代の画家。
- 2 供奉——官名。才芸あるものが皇帝の身边に仕えた。
- 3 明皇——唐の玄宗皇帝。
- 4 陳閔——唐代の画家。
- 5 飛黄・照夜——ともに駿馬の名。
- 6 五方之乗——各地方から集められた馬。

問 傍線部A「明皇詔令從陳閔受画法」の返り点の付け方と書き下し文の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

A 明皇詔令從陳閔受画法

- ① 明皇詔令^一從陳閔^二受画法^一
 明皇詔して從ひし陳閔をして画法を受けしめんとす
- ② 明皇詔令^一從陳閔^二受画法^一
 明皇詔して陳閔の受けし画法に從はしめんとす
- ③ 明皇詔令^下從陳閔^一受^中画法^上
 明皇詔して陳閔に從ひて画法を受けしめんとす
- ④ 明皇詔令^下從陳閔^一受^二画法^一
 明皇詔して陳閔を令從し画法を受けしめんとす
- ⑤ 明皇詔令^一從陳閔^二受^二画法^一
 明皇詔して令從の陳閔をして画法を受けしめんとす

解 答